

令和2年度 杉並区立東原中学校 学校関係者評価委員会報告書

学校評価・教育調査

【教 員】

- ・学校評価について（Web アンケート形式で実施）
評価項目および年度末まとめ概要に基づく

① 全般

教務主任、教員、の業務分担に関する意見が出された。改善案について回答されたが、新型コロナ禍にあり通常遂行できることが不可能であることが考えられる。一方で教員の数的配置を考慮したうえで学校組織の見直し及び教員業務の見直し（棚卸し作業）について引き続き進めていく必要がある

② 教務関係

生き方計画においては特に教育課程に関し新型コロナ禍による授業時間変更その他で教員の業務遂行に及ぼした制約は甚大なものであった。（定期考査等の試験実施に関しては別室での対応など通常には発生しない事例もある）

研修・研究においては新型コロナ化で殆んど実施できていない。その為令和3年度教育に関し、不安面が懸念される。教員が抱える心配事を、学校にある組織（学校運営協議会、学校支援本部、同窓会）を結集して、教員校内研修会などで課題を共有していく必要を感じる。

帳簿管理においてはデジタル化への移行を早急に検討、各種作業の効率化が期待できる。

広報対応では公開業務の周知など不足した部分もあった。新型コロナ禍における広報活動はホームページ、ショートメールなどの活用を図る事で自宅対応の増加も見据えて、情報の正確な伝達が要求されている。ホームページ対応は担当者への負担軽減からシステムの簡素化も検討課題。

教室配置等では室内環境整備（エアコン等）が新事態の変化に対応できることが必要。教員・生徒の授業環境確保は必須条件。

③ 生活指導関係

特別支援教育・食育全体計画においては、校内での生活指導での対応に限界が生じた事例が見られた。特に家庭、保護者、心の問題などへの対応が難しかった。これからの時代には更に十分な体制を整えておくことが義務教育現場に必要と受け止めた。また保健室の対応に特別支援教育の協働にするという案が提案された。給食時間が献立により不足する等や、量が足りないなどの課題も提言された。食べる側・盛り付ける側に立った見方も新しい発想につながる事と思える。

④ 第1学年

生徒関係では新型コロナ禍で1年生においては授業時間への制約や生活対応遅れなどで教員への負担が生じた。新入生のうえ新型コロナ禍による変則授業で問題行動やトラブルも発生した。教員間の対応で乗り切れたが学年体制での対応が出来ればよかった

⑤ 第2学年

現状をよく理解し、大きな問題も生じなかった。道徳教育において時間数の制約が生じた。担当を各教員の持ち回りで対応するという新しい施策も実施された。

⑥ 第3学年

厳しい状況下の中で3年生の頑張りを受け止めた。教員の卒業式への思いが感じられる。

⑦ 事務関係

事務関係では感染症対策用品の購入や老朽化校舎の設備故障などかなりの業務多忙を生じさせた。

⑧ 自由意見

活発な意見が提言された。毎年教員からの提言を取り入れる事で、教員の働き甲斐、生き甲斐が向上し生徒の発育、地域との協働、保護者への信頼等に寄与できることが期待される。

・教育調査

令和2年度東原中学校の肯定率平均値は 77.9% であった。

平均値を上回っている項目：

小中1貫した学習指導計画(82.4%)、個に応じた指導(94.1%)、主体的・対話的で深い学び(94.1%)、教材教員(ICT)(100%)、系統的・連続的指導(100%)、校内委員会・個別教育支援計画(88.2%)、個別指導計画(94.1%)の7項目である。特にICT教材・教員および系統的・連続的指導は肯定率100%であった。

下回っている項目は下記のように、全ての項目で昨年を下回っている。

合理的配慮の提供(70%)、学校評価(70%)、カリキュラム・マネジメント(64.7%)、小中学校の協力的指導(29.4%)、地域とともにある学校(47.1%)

の5項目である。特に小中学校の協力的指導(29.4%)および地域とともにある学校(47.1%)の2項目が低い。

今後の課題としては大きく下回っている2項目(小中学校の協力的指導および地域とともにある学校への肯定率を高める事を検討し、例えば杉九・桃五・東原連絡会等を開催し全校教員からの意見を集める等をしながら共通認識を得、具体策を講じる等で意識の向上を図りたい。小中学校平均値を上回っている項目については一層の向上を図るような校内の共通認識による情報の共有化を高めていきたい。その波及効果が合理的配慮の提供や学校評価の向上にも寄与できることと期待する。

学校調査・教育調査

【生徒】

- ・ **学校調査** 20項目について肯定率を調査した。全体の特徴としては2年生の肯定率が低い。原因は実証的に調べる必要があり推測はしないほうがいい。学年別にみると下記の様である(_ 表示は3学年共通の肯定率の高い項目)

① 1年生

下記にある様に肯定率の低いものを考慮しても、1年生は極めて高い状態にあるといえる。

肯定率の高いもの(70%以上の肯定率) 20項目中18項目で肯定率70%以上

授業の理解、評価の説明、道徳授業、挨拶、人間関係作り、生活の向上、学校行事活躍・学校行事(団結)、キャリア教育、安全な学校教育、外部講師、熱心な指導、公平な指導、誉めて育てる指導、学校生活全般(毎日の生活)、学校生活(母校愛)

肯定率の低いもの 2項目

各種便り(55.7%)、学校図書館(35%)

② 2 年生

肯定率の低い項目が多い。原因は定かではない。前年に比較し肯定率が下がった項目が多い。
肯定率 70%未満の項目は下記の 16 項目：

授業の理解、評価の説明、道徳授業、主体的な学習、人間関係作り、生活の向上、キャリア教育、安全な学校教育、外部講師、熱心な指導、公平な指導、誉めて育てる指導、学校生活全般（毎日の生活）、学校生活全般（母校愛）、各種便り、学校図書館

肯定率 70%以上の項目 下記の 4 項目

挨拶、学校行事（活躍）、学校行事（団結）、安全な学校生活

③ 3 年生 肯定率は高く

肯定率 70%以上の項目（16 項目）：

授業の理解、評価の説明、道徳授業、挨拶、人間関係作り、生活の向上、学校行事（活躍）・学校行事（団結）、キャリア教育、進路相談、安全な学校生活、外部講師、熱心な指導、誉めて育てる指導、学校生活全般（毎日の生活）、学校生活全般（母校愛）

肯定率 70%未満の項目（4 項目）：

主体的な学習、公平な指導、各種便り、学校図書館

- ・ **学校調査（授業アンケート）** 20 学科ごとに全生徒に対してアンケート調査を実施した 1 学年、3 学年は全教科（20 教科）についての回答が肯定率ほぼ 80%以上にあり、新型コロナ禍にあっても教員の努力が感じられる。2 年生は肯定率の低い教科がある。同じその教科について 1, 3 年生の肯定率が高い事から原因はよくわからない。

- ・ **教育調査 9 項目について調査した。** 学校調査と傾向は同じで 2 年生の肯定率が低い。
_は全学年共通で肯定率の高い項目

① 1, 3 年生は似たような傾向を示す

肯定率の低い項目： 個に応じた教育、地域とともにある学校

肯定率の高い項目：学級経営、学習成果の実感、学習評価、教材教具(ICT)（1, 2, 3 学年共通）、系統的連続指導、体育健康教育

② 2 年生は

肯定率が低い項目： 個に応じた指導（28.4%）、学習評価（40.5%）、道徳教育（51.4%）、地域とともにある学校（43.8%）、の肯定率が著しく低い

肯定率の高い項目：学級経営、学習成果の実感、教材教具（ICT）であった。

【保護者】

- ・ **学校調査** 21 項目について学校独自で調査した。

保護者がどの程度学校についての認識を有しているか不明な部分がある。学校独自の調査では肯定率を計算する場合に分母に回答不能者（よくわからない）の数を除いて計算してあることから肯定率の数値は実態に合っていると推測できる

① 3 年生保護者

肯定率の高い項目（70%以上）：

道徳の授業、生活の向上、学校行事（子供の活躍）、学校行事（子供の参画度）、教職員の指導、体験的な学習、先生と子供の関係、熱心な教育、安全指導、各種便り、学校公開・保護者会、学校生活全般

肯定率の低い項目（70%未満）：

授業の理解、家庭学習、いじめ不登校対応、キャリア教育、進路相談、教育方針・重点、適切な情報提供（安全確保）、地域との連携（地元人材活用）、地域との連携（行事への協力）

② 2, 1年生保護者

共通して肯定率が高い項目：

生活の向上、学校行事（子供の活躍度）学校行事（子供の取り組み姿勢）、先生と子供の関係、安全指導、学校生活全般（子供の充実度）

以上の結果から 学校調査において保護者は高いレベルで東原を信頼している事が想定される。肯定度が低い項目についても、新型コロナ禍で学校も家庭も大きな制約の中で対応してきたことを考えれば、その中で充実した中学校での時間であったと思量できる。とりわけ多くの行事が出来なかった子供たちはそれなりに東原中学校での生活を楽しみ教員との良い思い出が作れたのではないかと想定される。

・教育調査 11項目について区の調査が実施された。区の計算方式では肯定率を算出する場合の分母に回答不能者（よくわからない）の数が含まれているので事態が読めない。肯定率は低めに出てくることを想定して分析した。次年度からは回答不能者数の記載があればより正確な評価が出来る。

① 3年生保護者

肯定率の高い項目（55%以上）：

学校生活全般、学校評価、学級経営、学習成果の実感、学習評価、道德教育、体育・健康教育、地域と共にある学校 の8項目

肯定率の低い項目（55%未満）：

小中一貫校・異校種の協働、教材教具（ICT）、特別支援教育・理解啓発 3項目

② 2, 1年生保護者

肯定率の高い項目（55%以上）：

学校生活全般、学級経営、学習成果の実感、道德教育、体育・健康教育

肯定率の低い項目（55%未満）：

小中一貫教育・異校種の協働、学校評価、教材・教具（ICT）、特別支援教育研修・理解啓発、地域とともにある学校

区の教育調査においては、東原では小中一貫校や異校種との協働や特別支援教育への啓発に取り組む事が出来れば新たな東原中学校の取り組みが可能になる。今後はオンラインなどの手法を用いて子供への教育に対応していく事も期待されてくる。新型コロナ禍が終息する見通しが立たない状態から元の社会に戻ることを期待し、それに対応する制度や手法を検討していく時代になった。

学校関係者評価委員会・学校運営協議会での意見

学校を取り巻く状況について校長から説明を受けた。

① 学校調査・教育調査については多くの意見や質問が想定されたが時間的な制約もあり、やや不十分な感があった。学校調査・教育調査は貴重な情報を有している事がうかがえる。これから時間をかけて貴重な情報を見つけていく必要がある。また新型コロナ禍にあって教員、生徒、保護者それぞれ多くの課題を抱えている事が想定される。学校を支える組織（評価委員会 協議会 支援本部 同窓会）を活用し学校と情報を共有しながら学校への支援を図っていく事が必要ではないかとの意見も出された。

② 3年生運動会生徒アンケート結果（運動会 令和2年10月6日）

準備、当日、まとめの全部門で満足度は非常に高い値を示した。特に新型コロナ禍で大きな制約を受けた令和2年度の満足度が非常に高い事は注目に値する。学校閉鎖や授業時間への制約、友人との会話、給食時の制約などの中での高い数値に注目すると、生徒たちが学校生活で体験した様々な試練の発散効果が垣間見える。楽しい体験が卒業後の人格形成に大きく貢献することが期待される。

③ 合唱祭生徒アンケート結果（合唱祭 令和2年10月30日）

準備、当日の全部門で良好な結果だった。運動会と同様に生徒はこの二つの行事を通して高い感性を作り上げている。教員と生徒の努力の結晶と言える。授業と違い精神的、肉体的な発散が中学生生活に大きな効果をもたらしている。知識と体力と心の調和の効果が感じられるいい事例である。

令和3年3月2日 学校関係者評価委員会会長 眞下 進